## 職業実践専門課程等の基本情報について

東京医療秘書福祉 学校		設ī	置認可年月	月日 校長	長名			所在地			
字校	L&IT専門										
		=n.	- 詞司左			(電話)	(電話)	03-3814-6936			
設置者名			立認可年月		者名	₹	113-0033	所在地			
学校法人三幸	学園	昭和	和60年3月	8日 昼間	一彦	(住所) (電話)	東京都文京区本郷3 03-3814-6151	三丁目23番16号			
分野	Ī	認定課程名	3	認定学科名	3		門士認定年度	高度専門士認	定年度	職業実践	専門課程認定年度
教育•社会福祉	介護	福祉専門	課程	介護福祉和	4	平原	戊 8(1996)年度	-		平成	27(2015)年度
W71 0 0 44	「世の中の	困難を希望	!に変える」	をミッションとし、学校孝	を   を   を   を   を   を   を   を   を   を	づき. 介護等	美界に従事しようとする	者に必要な実践的か	への専門的な気	回識. 技能を	・教授することによっ
学科の目的				養成することを目的と							
学科の特徴(取得	T-/8 /k		******	* Y #L A = # 777 - + 188 L							
可能な資格、中退 率 等)	取得可能7		<b>麦福祉士、</b> 省	普通救命講習、専門士							
		今押担の	(枚マニ )公亜	な総授業時数又は総							
修業年限	昼夜	主味性の		立数	講	義	演習	実習	実	験	実技
2	昼間	※単位時間、	単位いずれ	単位時間		単位時間	単位時間	単位時間		単位時間	単位時間
年	空间	かに記入		62 単位	43	単位	13 単位	14 単位		単位	単位
生徒総定員	生徒爭	€員(A)	留学生	数 (生徒実員の内数)(B)	留学生書	引合(B/A)					
80 人	18	1		1 人	-	· %					
80 🗡	■卒業者			7		<del>, ,,</del>					
	■就職希	望者数(D		7		<del>Ž</del>					
	■就職者	数(E) 職者数(F)	:	7 4		<u> </u>					
	■就職率		/	100		%					
	■就職者	に占める地	元就職者の	D割合(F/E)		0/					
	■卒業者(	こ占める就具	職者の割合	57 r (E/C)		%					
				100		%					
就職等の状況	■進学者■その他			0		人					
	_ 、,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,										
	( A fe	4	在库衣类类	いた明子で会和を存まり	1 11 11 11 11 11	Att data A					
	(令和	4 職先、業界		ドに関する令和5年5月	1日時息の	71育報)					
	(令和4年度		77								
			ム、老人保	健施設、障害者支援	施設、グノ	レープホー.	ム等				
m — + 1 - 1 - 7		評価機関等、例えば以下					無				
第三者による 学校評価							30	価結果を掲載した			
, 12211		評価団体:			受審年月:			山柏末を掲載した ームページURL			
当該学科の											
ホームページ URL	2025年3月	に廃科予算	Ē								
ONE											
	( A . 当 /:	- ccc RB / - ト i	Z 質中)								
	(A:単位	対時間による								当公中即	
	(A : 単位	立時間による 総授業時数	女		77 ±++0	140 We n+ 41-				単位時間	
	(A:単位		対 うち企業等	等と連携した実験・実		授業時数				単位時間	
	(A:単位		対 うち企業等	等と連携した演習の授		授業時数				単位時間	
	(A : 単位		対 うち企業等	等と連携した演習の授 受業時数	業時数					単位時間単位時間単位時間	
	(A:単位		対 うち企業等	等と連携した演習の授	業時数		実技の授業時数			単位時間	
	(A:単位		対 うち企業等 うち企業等 うち必修打	等と連携した演習の授: 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	業時数 た必修の実 た必修の演	験・実習・習の授業時	数			単位時間単位時間単位時間	
企業等と連携した			対 うち企業等 うち企業等 うち必修打	等と連携した演習の授: 受業時数 うち企業等と連携した	業時数 た必修の実 た必修の演	験・実習・習の授業時	数			単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
実習等の実施状況			対 うち企業等 うち企業等 うち必修打	等と連携した演習の授: 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	業時数 た必修の実 た必修の演	験・実習・習の授業時	数			単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
			文 うち企業等 うち企業等 うち必修打 (うち企業)	等と連携した演習の授: 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	業時数 た必修の実 た必修の演	験・実習・習の授業時	数			単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数	文 うち企業等 うち企業等 うち必修打 (うち企業	等と連携した演習の授: 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	業時数 た必修の実 た必修の演	験・実習・習の授業時	数			単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数	女 うち企業等 うち必修打 (うち企業)	等と連携した演習の授: 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	業時数 た必修の実 た必修の演 ーンシップ	験・実習・ 習の授業時 の授業時数	数		70	単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数	文 うち企業等 うち企業等 うち必修打 (うち企ま 章定) 女	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したインター	業時数 た必修の実 た必修の演 ーンシップ	験・実習・ 習の授業時 の授業時数	数		70	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数	文 うち企業等 うち企業等 うち必修打 (うち企ま 章定) 女	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したインター 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授	業時数 た必修の実 た必修の演 ーンシップ	験・実習・ 習の授業時 の授業時数	数		70 14 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数	文 うち企業等 うち企業等 うち必修打 (うち企ま 草定) 女 うち企業等	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したインター 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授	業時数 た必修の実 た必修の演 ーンシップ 習・実技の 業時数	験・実習・ 習の授業時 の授業時数 授業時数	数)		70 14 0 62	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数	文 うち企業等 うち企業等 うち必修打 (うち企ま 草定) 女 うち企業等	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター 等と連携した不実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した	業時数 た必修の実 た必修の演 一ンシップ 習・実技の 業時数	験・実習・ 習の授業時数 授業時数 授業時数 験・実習・	数 ) ) 実技の授業時数		70 14 0 62	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数	文 うち企業等 うち企業等 うち企業等 (うち企ま 章定) な うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した	業時数 た必修の実 た必修の実 であります。 との修の実 ないなります。 ため修の実 ないなります。 ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	験・実習・ 習の授業時 の授業時数 授業時数 験・実習・ 習の授業時	数 ) ) 実技の授業時数 数		70 14 0 62 14	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数	文 うち企業等 うち企業等 うち企業等 (うち企ま 章定) な うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター 等と連携した不実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した	業時数 た必修の実 た必修の実 であります。 との修の実 ないなります。 ため修の実 ないなります。 ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	験・実習・ 習の授業時 の授業時数 授業時数 験・実習・ 習の授業時	数 ) ) 実技の授業時数 数		70 14 0 62 14	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数	文 うち企業等 うち企業等 うち企業等 (うち企ま 章定) な うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した	業時数 た必修の実 た必修の実 であります。 との修の実 ないなります。 ため修の実 ないなります。 ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	験・実習・ 習の授業時 の授業時数 授業時数 験・実習・ 習の授業時	数 ) ) 実技の授業時数 数		70 14 0 62 14	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時費 放数による3 総授業時費	文 うち企業等 うち企業等 (うち企業 章定) 女 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	業時数 た必修の実 た必修の実 でも必修の実 でも必修の実 を必修の実 を必修のす できる。	験・実習・ 習の授業時 の授業時数 授業時数 験・実習・ 習の授業時	数 ) ) 実技の授業時数 数		70 14 0 62 14	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時数 立数による3 総授業時数 のいてその担	文 うち企業等 うち企業等 うち企企業 章文 うち企企業 うち企企ま うち企企ま うち企企ま うち企企ま うち企企ま うち企企ま うち企企ま うち企企ま うち企からする。	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した き等と連携したインター ま等と連携したインター は、である。	業時数 た必修の実演 た必修の実演 を必修のの実演 ないを修の実演 ないました。 というでは、 というは、 というでは、 とい	験・実習・ 習の授業時数 授業時数 授業時数 酸・実習・ 習の授業時数	数 ) ) 実技の授業時数 数	第1号)	70 14 0 62 14	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時委 な数による3 総授業時委 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	文 うち企業等 うち企業等 うち企企業 章文 うち企企業 うち企企ま うち企企ま うち企企ま うち企企ま うち企企ま うち企企ま うち企企ま うち企企ま うち企からする。	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したインタ・ 等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したである ま等と連携したである。 まずと連携したである。 まずとも変素に従事したである。 まずとも変素的に従事がある。	業時数 た必修の実演 た必修の実演 を必修のの実演 ないを修の実演 ないました。 というでは、 というは、 というでは、 とい	験・実習・ 習の授業時数 授業時数 授業時数 酸・実習・ 習の授業時数	数 ) ) 実技の授業時数 数 )	(第1号)	70 14 0 62 14	単位時間 単単位時間 単単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単単位 単単位 単単位 単単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時委 な数による るの を必授業時委 をの課程で のいま専項第 でも対理して	文 うち企業等 うち必修格 (うち企業 できない) (うち企業 できない) (うち企まな) (うち企まな) (うち企まない) (うちんどうない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんない) (うちんどんどんどんない) (うちんどんどんどんない) (うちんどんどんどんない) (うちんどんどんどんない) (うちんどんどんない) (うちんどんどんない) (うちんどんどんない) (うちんどんない) (うちんどんない) (うちんどんない) (うちんない) (うちんどんない) (うちんどんない) (うちんどんない) (うなんない) (うなんない) (うんない) (うちんない	等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携した不ンタ・ 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したなる者	業時数 た必修の実演 た必修の実演 を必修のの実演 ないを修の実演 ないました。 というでは、 というは、 というでは、 とい	験·実習· 習の授業時数 授業時数 授業時数 の授業時数 の授業時数	数 ) 実技の授業時数 数 )   		70 14 0 0 62 14 14	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		総授業時委 な数による るの を必授業時委 をの課程で のいま専項第 でも対理して	文 うち企業等 うち必修 (うち企 章文 うち必修 (うちか) うちかが うちかが うちかが うちかが うちかが うちかが うちかが うちかが うちかが うちかが うちかが うちかが うちかが うちかが でいる。 でい。 でいる。 でい	等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携した不ンタ・ 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 要業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したなる者	業時数 た必修の実演 た必修の実演 を必修のの実演 ないを修の実演 ないました。 というでは、 というは、 というでは、 とい	験·実習· 習の授業時数 授業時数 授業時数 の授業時数 の授業時数	数 ) ) 実技の授業時数 数 )		70 14 0 0 62 14 14	単位時間 単単位時間 単単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単単位 単単位 単単位 単単位	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(B:単位	総授業時数 な数による3 総授業時数 ① 専修の課程で ② 学士の	文 うち企業等 うち必修格 (うち企業 できない) (うち企業 できない) (うち企まな) (うち企まな) (うち企まない) (うちんどうない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんどんどんどんない) (うちんどんどんどんない) (うちんどんどんどんない) (うちんどんどんどんない) (うちんどんどんどんない) (うちんどんどんどんない) (うちんどんどんない) (うちんどんどんない) (うちんどんどんない) (うちんどんない) (うちんどんない) (うちんどんない) (うちんない) (うちんどんない) (うちんどんない) (うちんどんない) (うなんない) (うなんない) (うんない) (うちんない	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したインター を連携した実験・実 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携した ま等と連携した まである。 まである。 は、学 は、学 は、学 は、学 は、学 は、学 は、学 は、学	業時数 た必修の実演 た必修の実演 を必修のの実演 ないを修の実演 ないました。 というでは、 というは、 というでは、 とい	験・実習・ 習の授業時数 授業時数 授業時数 検・実習・ の授業時数 (専修学	数 ) 実技の授業時数 数 )   	[第2号]	70 14 0 0 62 14 1	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記	(B:単位	総授業時数 な数による3 総授業時数 ① 専修の課程で で門課程で ② 学士の ② 高等等	文 うち企業等 うち必修格 (うち企ま 章皮 うち企企業等を な うち企企業等を うちののででは、 (うち企ま でする。 (うち企ま でする。 (うち企ま) でする。 でも当の修作は、 のする業は、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携した不ンター を等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したなど である。 は、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学ので	業時数 た必修の実演 た必修の実演 を必修のの実演 ないを修の実演 ないました。 というでは、 というは、 というでは、 とい	験・実習・ 習の授業時数 授業時数 授業時数 (専修学 (専修学	数 実技の授業時数 数 )	[第2号] [第3号]	70 14 0 62 14 2	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(B:単位	総授業時数 な数による3 総授業時数 ① 専修の課程で で門課程で ② 学士の ② 高等等	文 うち企業等 うち必修打 (うち企ま	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携した不ンター を等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したなど である。 は、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学ので	業時数 た必修の実演 た必修の実演 を必修のの実演 ないを修の実演 ないました。 というでは、 というは、 というでは、 とい	験・実習・ 習の授業時数 伊業時数 授業時数 の授業時数 の授業時数 (専修学 (専修学 (専修学	数 ) 実技の授業時数 数 ) 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号)	70 14 0 62 14 2	単位時間 単単位 中華 単単位 一人人人人人人人人人	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記	(B:単位	総授業時委 対数による3 総授業時委 ① すで門関し ② 高等士の ④ 修士の ⑤ その他	文 うち企業等 うち必修打 (うち企ま	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携した不ンター を等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したなど である。 は、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学ので	業時数 た必修の実演 た必修の実演 を必修のの実演 ないを修の実演 ないました。 というでは、 というは、 というでは、 とい	験・実習・ 習の授業時数 伊業時数 授業時数 の授業時数 の授業時数 (専修学 (専修学 (専修学	数 ) 実技の授業時数 数 ) 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号)	70 14 0 62 14 2 2	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単位 中時間間 単単位 中時間間 単単位 中間 単単位 中間 単単位 中間 単単位 中間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記	(B:単位	総授業時数 な数による3 総授業時数 「でや門課して ではます。 では、では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	文 うち企業等 うち必修打 (うち企ま	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携した不ンター を等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したなど である。 は、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学ので	業時数 た必修の実演 た必修の実演 を必修のの実演 ないを修の実演 ないました。 というでは、 というは、 というでは、 とい	験・実習・ 習の授業時数 伊業時数 授業時数 の授業時数 の授業時数 (専修学 (専修学 (専修学	数 ) 実技の授業時数 数 ) 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号)	70 14 0 62 14 2	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単位 中時間間 単単位 中時間間 単単位 中間 単単位 中間 単単位 中間 単単位 中間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記	(B:単位	総授業時委 対数による3 総授業時委 ① すで門関し ② 高等士の ④ 修士の ⑤ その他	文 うち企業等 うち必修打 (うち企ま	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携した不ンター を等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携したなど である。 は、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、学ので	業時数 た必修の実演 た必修の実演 を必修のの実演 できませた。 との修作の実演 できませた。 との修作の実演 できませた。 との修作の実演 できませた。 との修作の実演 できませた。 との修作の実演 できませた。	験・実習・ 習の授業時数 伊業時数 授業時数 の授業時数 の授業時数 (専修学 (専修学 (専修学	数 ) 実技の授業時数 数 ) 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号)	70 14 0 62 14 2 2	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単位 中時間間 単単位 中時間間 単単位 中間 単単位 中間 単単位 中間 単単位 中間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記	(B:単位	総授業時数 な数による3 総授業時数 「T で P門課して サ 等 す の 他 計 上記①~6	文 うち企業等 方ち必修	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携したインター を等と連携したインター 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した を修了した後、学 の優と 課程を修び事した者であした。 なる者等 となる者 を登りまする。 は、学 を登りまする。 は、学 を登りまする。 は、学 を関する。 は、学 を関する。 は、学 を関する。 は、学 を関する。 は、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、か ので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、学 をので、か をので、学 をので、か をので、学 をので、か をので、 をので、 をので、 をので、 をので、 をので、 をので、 をので、 をので、 をので、 をので、 をので、 をので、 をので、 をので	業時数 たいのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	験・実習・ 習の授業時数 授業時数 授業時数 の授業時数 (専修学 (専修学 (専修学	数 ) 実技の授業時数 数 ) 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	第3号) 第3号) 第3号) 第5号)	70 14 0 0 62 14 1 0 0 0 0 0 2	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単位 中時間間 単単位 中時間間 単単位 中間 単単位 中間 単単位 中間 単単位 中間	
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記	(B:単位	総授業時数 な数による3 総授業時数 「T で P門課して サ 等 す の 他 計 上記①~6	文 うち企業等 方ち必修	等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した き等と連携したインター を等と連携した実験で 等と連携した演習の授 受業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した ま等と連携した ま等と連携した まで を必要 まで まで を必要 まで まで を必要 を まで を まで を まで を まで を まで を まで を まで を ま	業時数 たいのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	験・実習・ 習の授業時数 授業時数 授業時数 の授業時数 (専修学 (専修学 (専修学	数 実技の授業時数 数 ) 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	第3号) 第3号) 第3号) 第5号)	70 14 0 0 62 14 1 0 0 0 0 0 2	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育 課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生か す。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2) 各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4) その他、教員としての資質・能力の育成に必要な研修に関する事項等

またより正確に業界における動向や求められる人材要件を把握するため、就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体 等と関係性を深め、幅広く連携を図ることで、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。

#### (2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意思を十分に生かし、実践的かつ専門的な 職業教育を実施するに相応しい教育課程の編成を協力して行うものとして位置づけている。

具体的には、審議を通じて示された教育課程編成に係る意見を基に、副校長および各校教務チームによって教育課程およびシラバスの改善素案が作成され、介護福祉分野専門委員会(別紙組織図:各専門委員会)にて提案される。

提案に基づき、介護福祉分野専門委員会にて審議の上、次年度の教育課程およびシラバスに改善内容が反映される。

#### (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年9月15日現在

名 前	所 属	任期	種別
松縄 和彦	社会福祉法人三幸福祉会 理事	令和4年 4月1日~令和6年3月31日	3
石井 百合子	特別養護老人ホーム 癒しの里西亀有 施設長	令和4年 4月1日~令和6年3月31日	3
川口 一美	聖徳大学聖徳大学短期大学部 社会福祉学科教授	令和4年 4月1日~令和6年3月31日	2
陶山 毅	東京医療秘書福祉&IT専門学校 副校長		_
川畑 昌隆	東京医療秘書福祉&IT専門学校 副校長		_
岡山 勝子	東京医療秘書福祉&IT専門学校 介護科教務主任		_
古澤 弘江	東京医療秘書福祉&IT専門学校 教員		_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
  - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
  - ②学会や学術機関等の有識者
  - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

# (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年7月13日 16:00~18:00 第2回 令和6年2月8日 16:00~18:00

### (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会にていただいた以下の意見について対応を行っている。

現場でのIT化及びDX化が進んでいるため、学校でも企業と連携しITに触れる機会を作ると良いというご意見をいただいた。本校の対応としては今年度企業様と連携をし介護施設で利用している眠りスキャンの操作や介護ロボットを使用しての解除方法を学ぶ機会を作っている。

コロナの影響やリスクヘッジの観点から実習先で実技が十分に行われていない可能性があるため、授業内で食事介助など 実技を多く取り入れて欲しいというご意見をいただいた。

本校の対応としては、ご意見をいただいた通り、授業内で介護施設で即戦力として働けるように実技を多く取り入れ、食事 介助、入浴介助など技術向上及び定着ができるように授業展開をしている。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

## (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的な指導を施すにあたり、介護業界における実績や、実践的かつ専門的な知識・技術およびその指導能力を有する指導者が得られる企業等を選定し、実践計画の作成から連携を図る。介護業界の求める人材要件に沿った計画、および評価基準・方法を設定し、企業等からのフィードバックに基づいた成績評価を行うことを基本方針とする。

# (2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

介護福祉科1年次前期2週間と2日間、後期5週間および2年次前期5週間の介護実習を実施している。予め実習を受諾いただいた介護施設において、利用者・家族とのコミュニケーション、既習知識・技術を実践し、現状把握と向上に努める。期間中は介護施設側に実習指導者講習会を修了した指導者の配置を依頼し、実践業務への教育指導を頂き、指定期間終了後は実習評価として、『技術』、『実習態度』、『コミュニケーション』、『チームワーク』、『実習記録』、『資質』の6項目で評価をいただくこととしている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連携企業等
介護実習IA	様々な利用者様の生活の場、生活環境を理解し、コミュニケーションを通して利用者様の理解に努める。利用者様が利用している施設や事業所が提供している介護サービスの特徴、多職種チームによるサービス提供の実際を学習する。	癒しの里デイサービス青戸、 ミアヘルサデイサービス中村橋等 ※連携施設総数 11
介護実習ⅡA	者の個別性が理解でき、利用者の社会参加を大きな目標とし、	癒しの里亀有、 同愛記念ホーム、 文京くすのきの郷等 ※連携施設数 10
介護実習 I B	生活歴、おかれた環境(法制度、人間関係含む)、生活リズム、 医学的観点など、様々な視点から情報を収集し、尊厳ある利用 者の個別性が理解でき、利用者の社会参加を大きな目標とし、 尊厳の保持の観点から、安全・安心・自立支援に基づいて収集 した情報を分析し、生活上の課題を明確にし、介護計画(個別援助計画)を立案することができる。基本技術を応用し、対象に応 じた日常生活援助が提供できる。	第一しいのき学園 ラックの空平井 社会福祉法人奉優会
介護実習ⅡC	受け持ち利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から介護過程が理解できる。 利用者の個別ケアを実施するために必要な介護が理解でき、他職種協働や関係機関との連携について理解する。介護という職業の意義、職業倫理について考え、理解する。	癒しの里南千住 癒しの里亀有 文京くすのきの郷 台東区立老人保健施設 千束
介護実習ⅡB	生活歴、おかれた環境(法制度、人間関係含む)、生活リズム、 医学的観点など、様々な視点から情報を収集し、尊厳ある利用 者の個別性が理解でき、利用者の社会参加を大きな目標とし、 尊厳の保持の観点から、安全・安心・自立支援に基づいて収集 した情報を分析し、生活上の課題を明確にし、介護計画(個別援助計画)を立案することができる。基本技術を応用し、対象に応 じた日常生活援助が提供できる。	平和台介護老人保健施設アバンセ 同愛記念ホーム 文京くすのきの郷

# 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

## (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、明日の介護業界を担う人材を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、「研修等に係る諸規程」に基づき、計画的に以下の研修を実施している。

- ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修
- ・企業等から講師を招いた指導力の修得・向上のための研修

#### (2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 介護業界におけるAI-ICT教育について 連携企業等:東京未来大学特任教授

期間: 令和4年8月19日(金) 対象: 介護分野所属教員5人

内容 介護業界で必須となるIT人材を育成するための方法とICT教育の重要性

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: ペップトークを用いたクラス運営及び授業展開 連携企業等:日本ペップトーク普及協会

期間: 令和4年8月22日(月) 対象: 教職員66名

内容 生徒の自己肯定感を高め指導をすることで社会で活躍する人材を育成する

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: スマート介護士について 連携企業等:株式会社ジェイテクト

期間: 令和5年11月15日(水) 対象: 担任教員2名

内容 現場で介護専用アシストスーツが使われている背景を知る

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 授業力向上と魅力の伝え方 連携企業等: 株式会社グローバルキャリア

期間: 令和5年8月25日(金) 対象: 教職員10名

内容 授業力向上のために必要な職員の連携と授業展開の方法

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

## (1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、関連分野の業界関係者及び卒業生、地域に根差した関連企業と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。 学校関係者評価は、「専修学校における学校評価のガイドライン」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「実施することを基本方針とする。また評価結果は学校のホームページで公表し、委員会で得られた意見についてはすみやかに集約し、各業務担当者にフィードバックすることで、学校運営の改善に生かすものとする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念·目標	(1)教育理念•目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	(11)国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

## (3)学校関係者評価結果の活用状況

委員会にていただいた以下の意見について対応を行っている。

生徒への就職指導において理念に共感を得たという内容ではなく、自分自身が受験する病院や企業でなぜ働きたいのかを明確に伝えるよう指導をしていただきたいというご意見をいただいた。学校の対応としては毎週の就職指導の中で企業研究をさせ、なぜこの病院・企業で働きたいのか、そして生徒自身が働く所でどのように成長したいのかを考えるよう指導している。退学率の低減について生徒のモチベーションを向上するために、各病院・企業で実践しているモチベーション管理を例にご意見をいただいた。当校の対応としてはモチベーション低下による退学率の低減をするためにご意見をいただいた内容を取り入れ、生徒自身が成長実感を感じられるように入学時ではスタートアッププログラムで目標設定を行い、後期開始前にステップアッププログラムを実施し、スモールステップ型の目標設定を行った。それに加えて、日々生徒自身の目標に対し振り返りができるよう振り返りBOOKを取り入れることで常に成長実感やモチベーション維持向上できるように取り組んだ。

## (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
小峰 俊一	青梅市立総合病院 病院事務局 経営企画課  課長	令和5年 4月1日~令和6年3月31日	関連企業
田中 正典	がん研究会有明病院 健診センター運営部 部長	令和5年 4月1日~令和6年3月31日	関連企業
鎮目 美代子	株式会社慶應メディカルサポート	令和5年 4月1日~令和6年3月31日	関連企業
橋本 敦	戸田中央メディカルケアグループ 理事		教育に関して知 見を有する者
松縄 和彦	社会福祉法人三幸福祉会 理事	令和5年 4月1日~令和6年3月31日	関連企業
齊藤 貴雄	飛鳥未来高等学校お茶の水キャンパス 教頭		教育に関して知 見を有する者
内堀 雅巳	卒業生 保護者	令和5年 4月1日~令和6年3月31日	その他
阿部 佑香	武蔵野赤十字病院 外来業務課 主事	令和5年 4月1日~令和6年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

○(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(

URL: <a href="https://www.sanko.ac.jp/tokyo-med/disclosure/">https://www.sanko.ac.jp/tokyo-med/disclosure/</a>

公表時期: 令和5年8月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

))

- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
- 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を行うことを基本方針とし、以下の姿を目指す。
- 1. 学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげること。
- 2. 入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、一人ひとりの能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。
- 3. キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげること。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

	ガイドラインの項目	学校が設定する項目
	(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標および計画
	(2)各学科等の教育	学科概要、カリキュラム、シラバス、客観的な指標の算出方法、卒業要
	(3)教職員	教員数、組織、専門性
	(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、実習実技への取り組み
	(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事
	(6)学生の生活支援	生活上の諸問題への対応
	(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援
	(8)学校の財務	学校の財務
	(9)学校評価	自己評価·学校関係者評価結果
	(10)国際連携の状況	
	(11)その他	
н,	レノ ( a ) フィミノ ( 4 ) La a la la c   La c c = 1 + 1	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物 ・ その他( ))

URL: <a href="https://www.sanko.ac.jp/tokyo-med/disclosure/">https://www.sanko.ac.jp/tokyo-med/disclosure/</a>

公表時期: 令和5年8月31日

# 授業科目等の概要

	(1	介護	福礼	上専門課程 介護福祉科)	授業付日寺の似安											
		分類		5 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (		配当	授	単	ł	受業.	方法	場	所	教	員	企業な
	必	選択	自由	授業科目名	授業科目概要	年次・学	業時	位数			- 験	校	校	専	兼	等との連
	修	必修	選択			期	数		義	習	実・ 技実	内	外	任	任	携
1	0			人間の尊厳と自立	代表的な社会福祉の理念・思想・制度に触れなが ら、サービス利用者をひとりの人間としてとらえる ことの大切さや、福祉の専門職として必要な姿勢に ついて学ぶ。	1前	30	1	0			0				
2	0			人間関係とコミュニケーション Ι	人間関係の形成やコミュニケーション技術を学ぶとともに、介護福祉士が主に対象とする高齢者や障がい者の心理についても理解する。	1前	30	1	0			0				
3	0			人間関係とコミュニケーションⅡ	人間関係の形成やコミュニケーション技術を学ぶと ともに、介護福祉士が主に対象とする高齢者や障が い者の心理についても理解する。	2後	30	1	0			0			0	
4	0			社会の理解	人間の生活が社会や様々な制度との関係性を持ちな がら営まれていること、また、介護保険制度・障害 者総合支援法・関連する諸制度の創設背景や、その 目的について理解する。	2通	60	2	0			0			0	
5	0			未来デザインプログラム	社会人としてあるべき人格を高め、自身及び他者へ のリーダーシップを醸成する。	1通	30	1	0			0		0		
6	0			総合福祉 I	介護の専門的な技能に付け加えて、社会や生活全 競、施設における住環境整備や介護事務など幅広く 学ぶ。	1後	30	1	0			0			0	
7	0			総合福祉Ⅱ	介護の専門的な技能に付け加えて、社会や生活全 疑、施設における住環境整備や介護事務など幅広く 学ぶ。	2前	30	1	0			0			0	
8	0			スポーツ福祉 I	運動指導やレクリエーション等を通して、中高老年 層が楽しく元気に、健康増進を実現できるためのサ ポートができるよう学ぶ。	1後	30	1		0		0			0	
9	0			スポーツ福祉 II	運動指導やレクリエーション等を通して、中高老年 層が楽しく元気に、健康増進を実現できるためのサ ポートができるよう学ぶ。	2前	30	1		0		0			0	
10	0			福祉カウンセリング Ι	心理全般を学び、よりご利用者の気持ちに沿ったサ ポートができるよう学ぶ。	1後	30	1	0			0		0		
11	0			福祉カウンセリング II	心理全般を学び、よりご利用者の気持ちに沿ったサ ポートができるよう学ぶ。	2前	30	1	0			0		0		
12	0			国際理解Ⅰ	日本のきめ細かな介護福祉に適応できる語彙、立ち 居振る舞い、知識を学ぶ、行事を通して日本の四 季、文化に触れ、国際社会の中での日本の現状につ いて知識を深める。	1後	30	1	0			0		0		
13	0			国際理解Ⅱ	日本の国家資格ライセンスについて理解し、介護福祉に適応できる語彙、知識を深める。国際社会の福祉の現状を理解し、その支援に必要な基礎的な知識を学ぶ。	2前	30	1	0			0		0		
14	0			介護の基本 I	介護を必要とする人を生活の観点から理解を深める ことで人間の多様性及び高齢者の暮らしの実際や障 害がある人への理解へ繋げ、介護を必要とする人の 生活環境の考え方を理解する。	1通	120	4	0			0			0	
15	0			介護の基本Ⅱ	多様な介護ニーズへ適切に対応するための介護サー ビスの特徴を知る。又、多様な介護現場で利用者の 生活の安全を守るべくセーフティマネジメントを展 開するための基礎的な力を奏う。	2通	60	2	0			0			0	
16	0			コミュニケーション技術 I	対人援助職としてのコミュニケーションのあり方に ついて理解し、具体的な利用者・家族に対する技法 ならびにチームとしての他職種間でのコミュニケー ションについても学ぶ。	1前	30	1	0			0			0	
17	0			コミュニケーション技術Ⅱ	対人援助職としてのコミュニケーションのあり方に ついて理解し、具体的な利用者・家族に対する技法 ならびにチームとしての他職種間でのコミュニケー ションについても学ぶ。	2後	30	1	0			0			0	
18	0			生活支援技術 I	その人らしい生活サイクルを構築していくことは、 利用者やその家族の生活をメリハリのあるものと し、人としての尊厳を保持していくことに繋がるこ とを学習する。	1通	180	6		0		0		0		
19	0			生活支援技術 Ⅱ	移動における技術の根拠の理解と基本技術から状況 に応じた応用力を学びぶ、また、排泄の基本技術を 習得し、利用者の立場に立ったよりよい排泄の支援 を考え実践する。	2通	120	4		0		0		0		
20	0			介護過程Ⅰ	学習してきた知識や技術を統合して、利用者に求められる支援を導くためには介護過程という思考の展開が必要である。この科目で「物事を進める際の考え方」を習得する。	1通	90	3	0			0			0	
21	0			介護過程Ⅱ	介護実習で経験した介護過程の実践的展開を振り返 ることで、介護とは何か、よりよい介護を提供する ということはどういうことなのか、自己の介護報の 形成へとつなげる。	2通	60	2	0			0			0	

				T											
22	0		介護総合演習 I	講義や生活支援技術などの演習で学んだことを、各 実習目標及び実習施設で役立てられるように講義・ 演習を中心に、その方法・手段について学習する。	1通	60	2	0			0		0		
23	0		介護総合演習Ⅱ	介護総合演習 I で統合するための手段や方法を介護 現場での実習と段階を追って実践し、社会に求めら れる介護福祉士の役割と自立支援に向けた他職種協 働の意義と役割を理解する。	2通	60	2	0			0		0		
24	0		介護実習IA	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。本人の望む生活 の実現に向けて、多機種との協働の中で、介護過程 を実践する能力を養う。	1前	30	1			0		0	0		0
25	0		介護実習ⅡA	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。本人の望む生活 攻実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程 を実践する能力を養う。	1前	70	2			0		0	0		0
26	0		介護実習ⅡB	介護課程の一連の流れを実施することで、安全・安 心・自立支援を目指した介護の在り方を考える。ま た、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役 割を理解する。	1後	120	4			0		0	0		0
27	0		介護実習IIC	受け持ち利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から介護過程 が理解でき、利用者の個別ケアを実施するために必 変な介護が理解でき、地職種協働や関係機関との連 携について理解する。	2前	160	5			0		0	0		0
28	0		介護実習 I B	様々な施設の目的、地域における役割、法的位置づけが理解で、社会人としてのマナーを守り、利用者・家族とのコミュニケーションを通して、人間関係の構築ができる。	2前	70	2			0		0	0		0
29	0		こころとからだのしくみ I	障害の概念や基礎理念を学び、障害に対する 医学的知識を習得することで、基礎的理解を深めて いく。また障害のある人に対する生活支援について 考え、連携や協働の必要性や変換の支援についても 理解を深める。	1前	60	2	0			0		0		
30	0		こころとからだのしくみ II	こころのしくみ・からだのしくみについて、基礎的 知識の理解を確認しながら、介護を必要とする人へ の理解を深め、専門職としての介護者の在り方が思 考できるようになる。	1後	60	2	0			0		0		
31	0		発達と老化の理解	人が誕生し、加齢とともに成長・発達・成熟してい く過程を理解する。また、老化による心理面・疾患 等を学ぶ、加齢とともに成長・発達・成熟していく 過程と老化による心理面・疾患等の理解を深め、専 門職としての介護実践につなげていく。	2通	60	2	0			0		0		
32	0		認知症の理解	認知症ケアの歴史や理念を基に認知症高齢者 の現状・行政上の視点から、介護の支援につ いての知識・理解を深め、「共に生きる」という概 念を介護実践に生かせるように学ぶ。	1通	60	2	0			0		0		
33	0		障害の理解	障害の概念や基礎理念を学び、障害に対する 医学的知識を習得することで、基礎的理解を深めて いく。また障害のある人に対する生活支援について 考え、連携や協働の必要性や家族の支援についても 理解を深める。	2通	60	2	0			0		0		
34	0		医療的ケア I	介護福祉士として医療的ケアとして行う背景を理解 し、医療的ケアを安全に実施できる為の基礎知識を 学び、安全に医療ケアの支援が行えるようにする。	1後	15	1	0			0		0		
35	0		医療的ケアⅡ	医療的ケアを実施する際に、安全な療養生活を保障 する為に必要な基礎知識と清潔操作と感染予防の必 要性を学ぶ。また、医療的ケアを必要とする人の健 康状態を把握する。	2通	48	3	0			0		0		
36	0		医療的ケアⅢ	「喀痰吸引」「経管栄養」「救急禁生」において、 シミュレーションを使用し満習を行い、利用者の心 身の状況の観察、看護師との連携・医師への報告な ど、一連の流れを学ぶ。	2後	15	1		0		0		0		
37	0		教科以外の教育活動 I (HR)	検定や行事等のスケジュール確認や伝達事項 の確認を行う。	1通	30									
38	0		教科以外の教育活動Ⅱ (HR)	検定や行事等のスケジュール確認や伝達事項 の確認を行う。	2通	30									
_	_	_	合計	38	和	· II				70	単	寸 (	単位	時間	1)

	卒業要件及び履修方法	授業期間等				
卒業要件:	本校に修業年限以上在学し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に、卒業の認 定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示すとおりとする。	1 学年の学期区分	2 期			
履修方法:	原則として教育課程に定められている順序で履修する。	1 学期の授業期間	15 週			